



WeServ Systems International, Inc.

会社概要

所在地

マニラ(本社)

東京(日本支社)

カリフォルニア(米国支社)

ロンドン(英国支社)

設立

1993年

売上

12億円

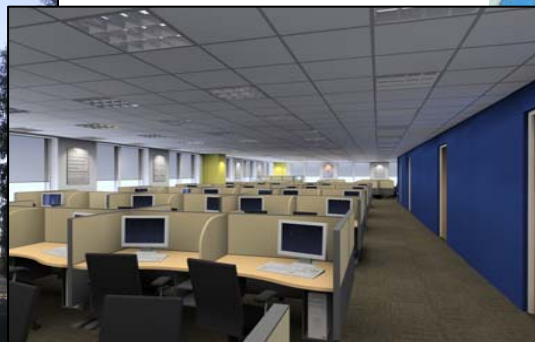
従業員数

300名+

日本語要員数

1級 6名、2級 10名

3級 17名、4級 9名

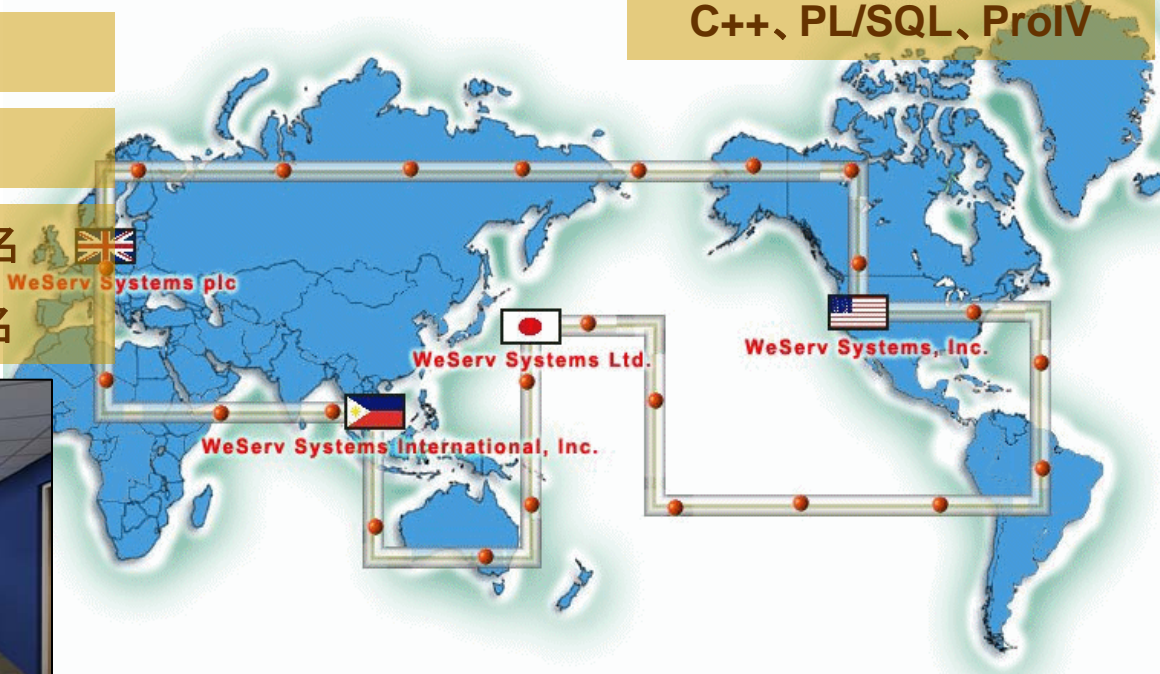


業務内容

アプリケーション開発
パッケージインプリ、APM
テスト、品質管理
レガシーマイグレーション

スキルセット

Java、.Net、COBOL
C++、PL/SQL、ProIV



地域別売上げ比率(2007年)

北米市場;

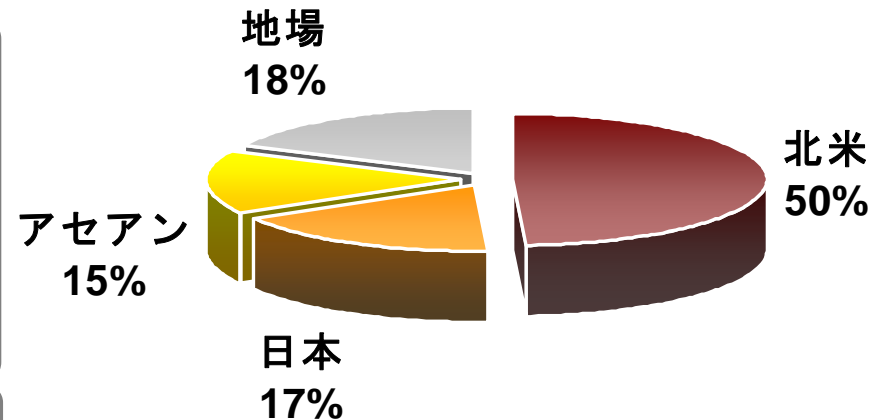
- コンピュータ製造業(アプリ保守)
- 大手テレコムCOBOL保守
- ERPパッケージ開発、カスタマイズ
- 流通POS開発・テストング

日本市場;

- モバイルバックエンド開発
- 金融システム開発、カスタマイズ
- 製薬関連パッケージサポート
- 流通パッケージ開発、カスタマイズ

アセアン市場;

- 日系銀行、
- 証券、
- 自動車製造業、
- クレジットカード決済など



北米系と日系でのオフショアアプローチの違い

	欧米系商談	日系商談
戦略性	「単純」、「繰返し」、「ボリューム」、「特殊スキル」など作業毎に継続性・戦略性を持ってボリューム委託する傾向。	一括請負・単発開発業務の発注傾向。次の作業まで間隔があく。長期的な継続戦略性が乏しい。
コミュニケーション	英語、英語ドキュメント、 電話会議、TV会議 時差あり、ローカルと議論が活発	日本語、日本語ドキュメント 電話会議、TV会議 時差なし、ローカルと議論は少ない傾向。
要求スキル基準	役割ごとに明確(絶対的基準)	動的に基準が変わる・兼務(相対的基準)
作業特性	グローバルスタンダードをベースとしてスコープ・作業単位・プロセス単位が明確。(ドキュメント重視)	定義されているスコープ・作業単位・プロセスなどに対し柔軟な運用を求められる。(ドキュメント軽視)
	各作業に対する専門性を重視(分業体制)	各作業をフレキシブルに対応重視(少数精鋭体制)
	要員離職考慮大(影響度が測りやすい)	要員離職考慮小(影響度が測りにくい)
	T&Mと一括請負と作業に応じ使い分け	どんな作業も一括請負
	運用はSOW・契約書重視、変更がある場合はスコープを変更する。ドキュメント重視。	SOW・契約書に対し運用は柔軟性を重視。ドキュメント軽視。
評価形態	SLAなど評価基準に基づき、客観的な評価をする傾向がある。	SLAなど評価基準があいまいで、主観的な評価をする傾向がある。

日系ビジネスへの取り組み

長期的、継続的戦略性



リソースを最大限に活用するための
オフショア開発の工業化

コミュニケーション



日系オフショアに特化した
コミュニケーションメソッドの体系化

曖昧性



曖昧性の排除
グローバルスタンダード準拠

オフショア開発の工業化

プロジェクトマネジメントの自動化、OSSを活用した開発支援ツールのフレームワーク化、見える化によるリソースマネジメントの最適化

「標準化」

「見える化」

オフショア開発の工業化

「カイゼン」

WISDM (WeServ Innovative Software Development Model)

PM
Automation

OSS開発
Framework

Prospective
HRM

コミュニケーションメソッドの体系化

コミュニケーション

メンバーが横にいる感覚でプロジェクト運営

- 時間、労力を消費
- オンラインでのやり取り

専用ドキュメント

曖昧な日本語表現で十分な国内開発

- 日本人同士では最適
- 行間を読む力が必要

バッチコミュニケーション

見える化で情報共有

文章での表現の排除

単語・記号で単純表現

日本語辞書の蓄積

グローバルスタンダード準拠

ISO9001やCMMIに準拠したプロセス・標準化ドキュメントの適用を徹底し、仕様、スコープ、役割分担などの曖昧性を排除





B R I D G I N G
B U S I N E S S
G L O B A L L Y